

新型コロナウイルス感染症の影響によりやむを得ず学校に登校 できない児童生徒の学習保障についての取組事例

令和4年3月

文部科学省初等中等教育局

目次

<小学校の事例>

- ① **オンラインを活用した健康観察・学習指導とプリント等を用いた学習指導の併用**（福島県A市立B小学校） 1
#同時双方向型Web会議システム #健康観察 #プリント学習
- ② **Web会議システムの常時接続により、クラスとのつながりを継続**（神奈川県鎌倉市立C小学校） 2
#同時双方向型Web会議システム #各教科等の指導 #児童生徒の活躍 #常時接続
- ③ **Web会議システム、学習支援ソフトを活用した授業や課題の配信**（三重県伊勢市立D小学校） 3
#同時双方向型Web会議システム #学習支援ソフト
- ④ **ICT端末の持ち帰りの実証によるスムーズな同時双方向の授業配信**（静岡県静岡市立E小学校） 4
#同時双方向型Web会議システム #端末持ち帰り
- ⑤ **Web会議システムで授業を同時双方向で配信し学校とのつながりを継続**（岡山県総社市立F小学校） 5
#同時双方向型Web会議システム #常時接続 #学習支援ソフト #登校再開後の指導
- ⑥ **Web会議システムの活用により、スムーズな登校再開**（島根県益田市立G小学校） 6
#同時双方向型Web会議システム #各教科等の指導
- ⑦ **学習課題を自宅ポストに配布・登校再開後は学習支援員による補充学習を実施**（高知県H市立I小学校） 7
#プリント学習 #登校再開後の指導
- ⑧ **Web会議システムを使って話合いに参加**（福岡県J市立K小学校） 8
#同時双方向型Web会議システム #学級活動

<中学校の事例>

- ① **学習支援ソフトを活用した意見交流や共同編集機能の有効活用**（福島県L市立M中学校） 9
#同時双方向型Web会議システム #学習支援ソフト #共同編集機能 #各教科等の指導 #端末持ち帰り
- ② **登校している生徒が役割を担うことで登校できない生徒の学習を継続**（神奈川県鎌倉市立N中学校） 10
#同時双方向型Web会議システム #学習支援ソフト #児童生徒の活躍
- ③ **Web会議システムの活用により生徒が自宅からオンラインで発表**（岡山県笠岡市立O中学校） 11
#同時双方向型Web会議システム #各教科等の指導
- ④ **自宅待機等の生徒に対する授業動画のライブ及びオンデマンド配信の併用**（鹿児島県P市立Q中学校） 12
#同時双方向型Web会議システム #オンデマンド配信

<高等学校の事例>

- ① **クラウドによる課題の受け渡しとチャット機能を活用した質疑応答**（北海道立R高等学校） 13
#同時双方向型Web会議システム #チャット機能 #登校再開後の指導
- ② **準備負担感を抑えたTeamsの会議機能によるリアル＋オンライン学習/Teamsを用いた受験期の小論文・面接のオンライン指導**（岩手県立S高等学校） 14
#同時双方向型Web会議システム #入試への対応
- ③ **生徒が「ICTリーダー」となり教室での授業を同時双方向で配信**（三重県立T高等学校） 15
#同時双方向型Web会議システム #児童生徒の活躍
- ④ **自前のICT端末の活用による同時双方向の学習指導**（静岡県静岡市立U高等学校） 16
#同時双方向型Web会議システム #チャット機能

<特別支援学校の事例>

- ① **大学の一般入試に対応したオンライン学習**（東京都立Vろう学校） 17
#同時双方向型Web会議システム #学習支援ソフト #入試への対応
- ② **コロナ禍等における家庭との連携による学びの保障**（北海道立W視覚支援学校） 18
#同時双方向型Web会議システム #学習支援ソフト
- ③ **Web会議システムにより課題や定期的な連絡を配信**（東京都立X特別支援学校） 19
#同時双方向型Web会議システム

オンラインを活用した健康観察・学習指導と プリント等を用いた学習指導の併用 (福島県A市立B小学校)

- 感染への不安等によりやむを得ず登校できない児童。
当該児童の家庭は、日中は保護者が児童の学習状況等を見ることができる。
- 朝に、担任がオンラインにより本人の健康観察と1日の学習予定の確認を行う。
- 放課後の時間帯に、担任がオンラインにより1日の学習の振り返りや児童からの質問などを中心とした個別指導を行う。
- 担任が対応できない場合には、担任外の教員が対応し、指導に当たっている。
- 学習のための課題は、保護者が来校し担任から受け取ったり、オンライン学習サービスからダウンロードしたりしている。



Web会議システムの常時接続により、クラスとのつながりを継続 (神奈川県鎌倉市立C小学校)

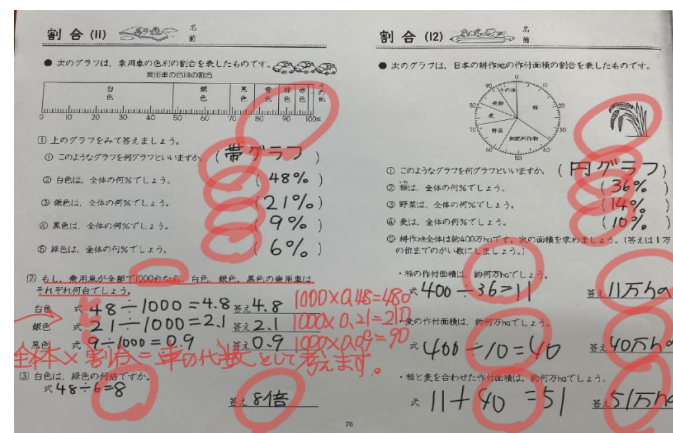
- 重症化リスクの高い基礎疾患を抱える高学年児童が、新型コロナウイルス感染拡大に伴い長期間に渡って学校に登校ができなくなった。
- 当該児童の学習保障のため、体育科以外の全ての時間でGoogle Meetを常時接続し、授業の様子を配信した。児童が自宅で一人画面を見つめるのではなく、クラスの一員として一緒に活動に参加しているという実感を持つことができるよう工夫を凝らした。
- クラスメイトがいつでも当該児童に話しかけられるようにしたほか、図画工作科のキットはあらかじめ自宅に届けて一緒にの時間に作る事ができるようにしたり、移動教室の際も「〇〇、一緒に行くよ～」と児童が配信用のICT端末を活動場所に持っていくようにするなど、オンラインでもクラスとのつながりや一体感を持つことができている。



移動教室の時も、
理科の実験でもいつも一緒！

Web会議システム、学習支援ソフトを活用した授業や課題の配信 (三重県伊勢市立D小学校)

- 小学校5年生の児童。家族が新型コロナウイルスに感染症に感染したことによる濃厚接触者となり、7日間自宅待機をすることになった。
- 当該児童に対して、Web会議システムを用いて授業配信を行った。併せて、授業の中で学習支援ソフトを活用し、指導者からは課題、学習資料の配信を行い、該当児童はタッチペンを使って授業の振り返りや課題等に取り組んだ。
- 一方向の授業配信にならないようWeb会議システムで発言の場を設けたり、声掛けを行ったりした。また、学習支援ソフトを活用し提出された振り返りや課題等にタッチペンでコメントをつけて返信した。



ICT端末の持ち帰りの実証によるスムーズな同時双方向の授業配信 (静岡県静岡市立E小学校)

- 小学校4、5年生の複数の児童が、濃厚接触者であること等により、登校できない状況となった。
- 当該児童に対して、Web会議システムを活用し、教室の授業を同時双方向で配信することで、オンラインで学習指導を受けられるようにした。
- 事前に6年生で自宅への端末持ち帰りと接続確認の実証実験を行っていたため、スムーズに行えた。
教師は、画面上での資料の見やすさや、オンライン参加児童からの意見・質問のしやすさなどについて、工夫して指導を行った。



Web会議システムで授業を同時双方向で配信し学校とのつながりを継続 (岡山県総社市立F小学校)

- 濃厚接触者となったため10日間程度登校できない児童に対して授業配信を行った。
- 朝の会から終業まで、Web会議システムで当該児童の自宅と学校をオンラインで接続し、双方向で授業を配信した。必要に応じて、学習支援ソフトも活用し、課題のやりとりを行った。**配信中、児童に指名して発表させたり、演習問題後に児童から「先生できました」と発言があったりと、オンライン上で双方向のやりとりがあった。**
- 授業配信を行う際、**自宅の様子が映ることについて事前に保護者の承諾を得た。休み時間も、当該児童が学校とつながれるよう、教卓に設置した端末を反転し、教室内の様子を配信した。**教室の児童と当該児童が会話をを行う等の様子も見られた。
- 登校再開後、授業配信した内容を含め、当該児童の**学習状況を確認しながら休み時間や放課後等に補習を行った。**授業配信の成果もあり補習は短時間で実施できた。

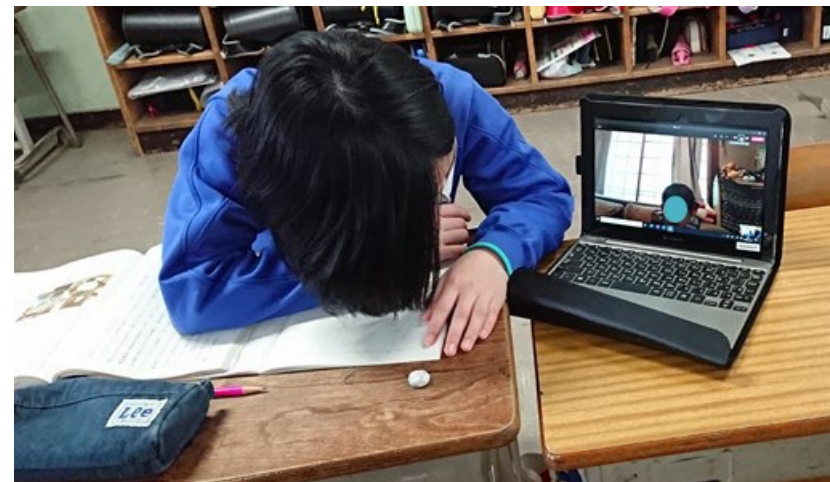


Web会議システムの活用により、スムーズな登校再開 (島根県益田市立G小学校)

- 5年生児童が1名、濃厚接触者となり、2週間の自宅待機をすることになった。
- 当該児童に対して、Web会議システムを活用して、登校しているときと同じように朝の会から帰りの会まで、リモートで参加し、**音楽のリコーダーや書写等の実技にも自宅で取り組んだ。**
- **児童が相互にやりとりをしていくことで、互いに「早く会いたい」という思いが強くなり、自宅待機明けの登校もスムーズであった。毎日学習に参加している状況であったため、学習の遅れは無く、当該児童や保護者も安心していた。**



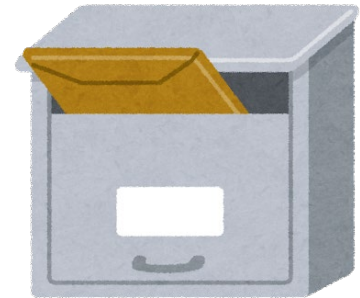
朝活動「読み語り」



授業中「ペア学習」

学習課題を自宅ポストに配布・ 登校再開後は学習支援員による補充学習を実施 (高知県H市立I小学校)

- 7日間自宅待機することになった児童に対して、自宅にて授業配信の視聴を提案したものの、保護者の希望により、課題の配布を選択。
- **毎日、プリント等を当該児童の自宅ポストに投函**し、当該児童は問題を解くなどの家庭学習に継続して取り組んだ。担任は学習の進捗や生活について電話で日々確認を実施。
- 登校再開後は、**学習支援員による補習を実施**するとともに、**同支援員が通常の授業にも入って当該児童に声かけ**を行うなど、再開後の学習に支障がないよう継続的に支援している。



Web会議システムを使って話合いに参加 (福岡県J市立K小学校)

- 小学校5年生の児童。同居家族が新型コロナウイルス感染症に感染したことにより、濃厚接触者となり、自宅待機となった。
- クラスの全員レクリエーションについて複数案から内容を決定するため、Web会議システムを使って話合いを実施した。
- 学級会での話合いに参加できたことで、個人の思いや意見を尊重し、集団としての合意形成を図る上で有効だった。
- オンライン参加の児童が全体の話合いの様子を見渡せ、声が届くよう、座席位置を前方にするなどの工夫をした。

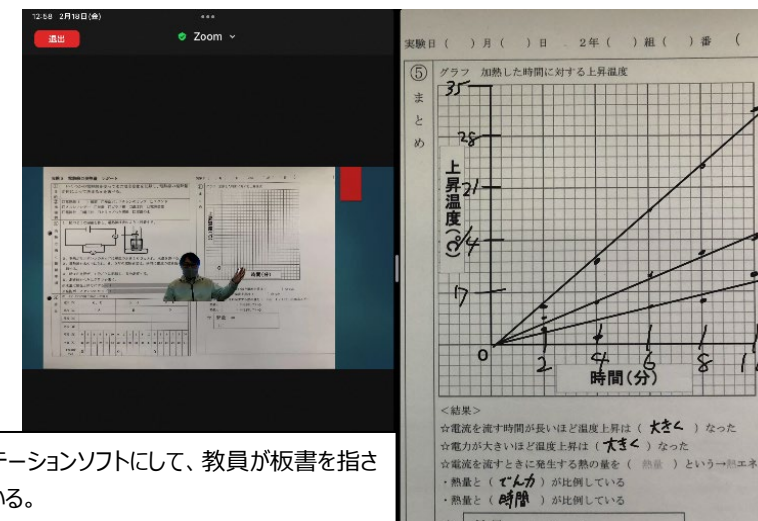


学習支援ソフトを活用した意見交流や共同編集機能の有効活用 (福島県L市立M中学校)

- 濃厚接触者に認定され、登校できない生徒。当該生徒がICT端末を持ち帰り、学習指導を継続した。
- Web会議システムを使用して、授業や委員会活動等に参加し、オンライン上で登校時とできるだけ同じ生活となるように配慮した。
- 授業の板書や、使用した学習プリント等を写真を撮り、当該生徒に配信した。
- 授業の内容によっては、学習支援ソフトのコミュニケーションツールを用いて、意見の交流やノート等の配信を行った。
- 学習支援ソフトの共同編集機能を用いて、理科の実験結果を共同で整理した。
- 生徒からは、「実験の操作方法などを画面上でしっかり確認できた」「グラフはタブレットの方が描きやすかった」という感想が聞かれた。



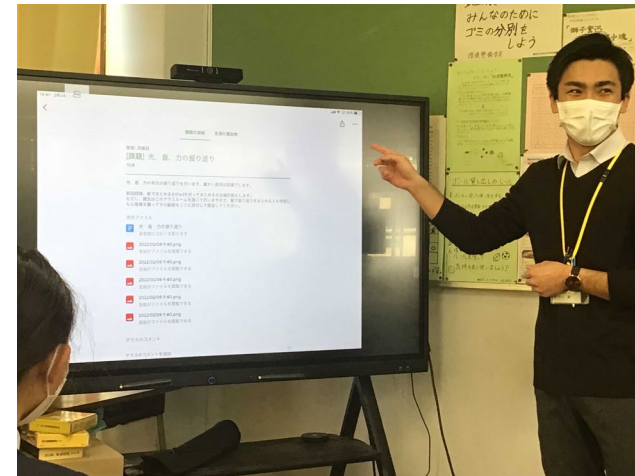
1 端末で 2 画面表示



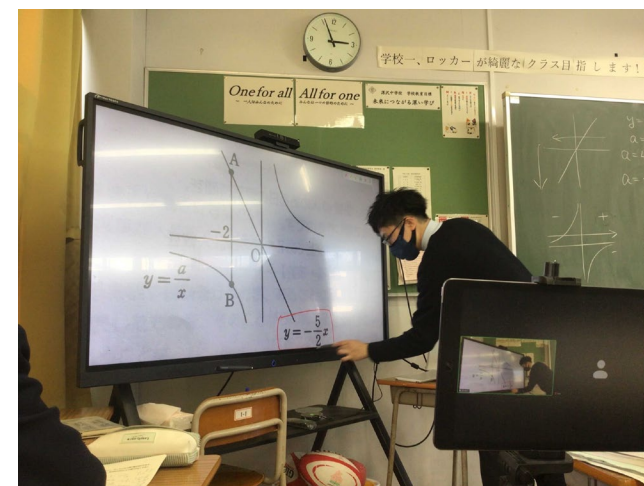
背景をプレゼンテーションソフトにして、教員が板書を指さすように使用している。

登校している生徒が役割を担うことで登校できない生徒の学習を継続 (神奈川県鎌倉市立N中学校)

- 感染拡大に伴い、濃厚接触者となり自宅待機を余儀なくされた生徒や、自身や家族に基礎疾患があるなどにより登校できない生徒が増加。
- 当該生徒のうち希望する者に対して、Zoomを活用したライブ授業の配信を行うとともに、Google Classroomを通じて課題の配信・回収や当日の授業資料・板書を写真撮影して共有することにより、学校に来られなくても学びの継続ができるよう取り組んだ。
- **板書の撮影を生徒の教科係のルーチンとし、持続可能な仕組み**とした。また、教室にいる生徒に対してもGoogle Classroomを通じた課題指示等を行うことで、授業へのキャッチアップができるようになった。



Google Classroom を通じた課題配信・板書共有



持ち帰ったICT端末へのライブ授業配信

Web会議システムの活用により生徒が自宅からオンラインで発表 (岡山県笠岡市立O中学校)

- 3名の生徒が欠席した。(体調不良2名、家族に風邪症状があり、登校を見合わせた生徒1名)
- 長期間出席できない生徒には、これまでもオンラインで課題のやりとりを行う取組を行っていたが、この日は、総合的な学習の時間で職業や自己の将来に関する課題について、収集した情報を基に、まとめたことを発表する日であった。**欠席した3名の生徒も体調に留意しながらWeb会議システムにより参加し、当日発表する予定であった生徒1名は、自宅から自身でまとめた内容を発表した。**
- 意見交換や感想の発表等もオンラインで実施し、対面での実施とほとんど変わらず取組を行うことができた。

※ 笠岡市は、平時においても端末を自宅に持ち帰っており、このことがやむを得ず登校できない生徒へのオンラインによる学習保障の一助となっている。



自宅待機等の生徒に対する授業動画のライブ 及びオンデマンド配信の併用 (鹿児島県P市立Q中学校)

- 1学年と2学年の複数の生徒が、新型コロナウイルス感染症に感染し、また、数名の生徒が濃厚接触者となり自宅待機となった。
- 当初は、YouTubeで授業を録画し、オンデマンド配信を行ったが、授業時間に合わせて指導を受けたいとの要望から、Teamsによる授業のオンラインのライブ配信も行った。
- オンデマンド配信の良さは、振り返って何度でも視聴できることであり、ライブ配信の良さは、授業時間に合わせて指導を受けられることである。双方のメリットを生かしながら、オンラインで学習指導を提供した。



クラウドによる課題の受け渡しとチャット機能を活用した質疑応答 (北海道立R高等学校)

- これまで複数名の生徒の同居家族が新型コロナウイルス感染症に感染し、7日間以上の外出自粛（待機）となった。
- 当該生徒に対して、クラウドにより授業の内容を補う課題を配付するとともに、Web会議システムを活用し、教室の授業を同時双方向で配信することで、オンラインで指導を受けられるようにした。
- **授業中にチャット機能を活用し、質問を受ける**など、指導の充実を図った結果、他の生徒に遅れをとることなく通常どおりの指導に戻ることができた。また、配付した学習課題は、**登校後、教科担任から解説し、疑問の解消に努めた。**



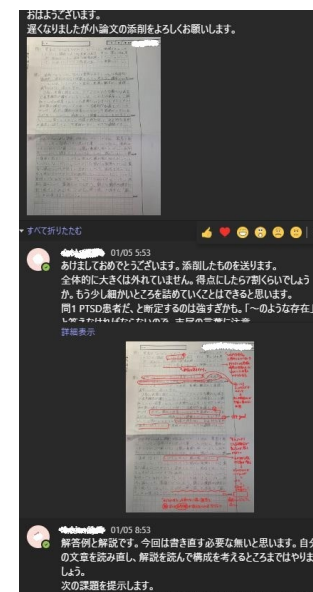
オンラインによる授業配信の様子

準備負担感を抑えたTeamsの会議機能によるリアル＋オンライン学習 Teamsを用いた受験期の小論文・面接のオンライン指導 (岩手県立S高等学校)

- 各クラスにおいて数名程度、家族の濃厚接触認定等によって自宅待機を余儀なくされた。
- 学校で行っている授業の様子をTeamsによってクラス別に配信し、リアル授業とオンライン学習を両立した。
- 配信端末はChromeBook1台を教室中央付近に配置し、カメラを教卓・黒板方向に向けるだけのものとした。準備作業が簡単で突発的な欠席にもすぐに対応でき、授業の形態によって配置も自由に変えることができることから、授業者や情報管理担当者の負担を大きく軽減することができた。
- 自宅待機期間に小論文や面接の準備が必要な生徒には、Teamsで小論文指導や面接練習を行った。



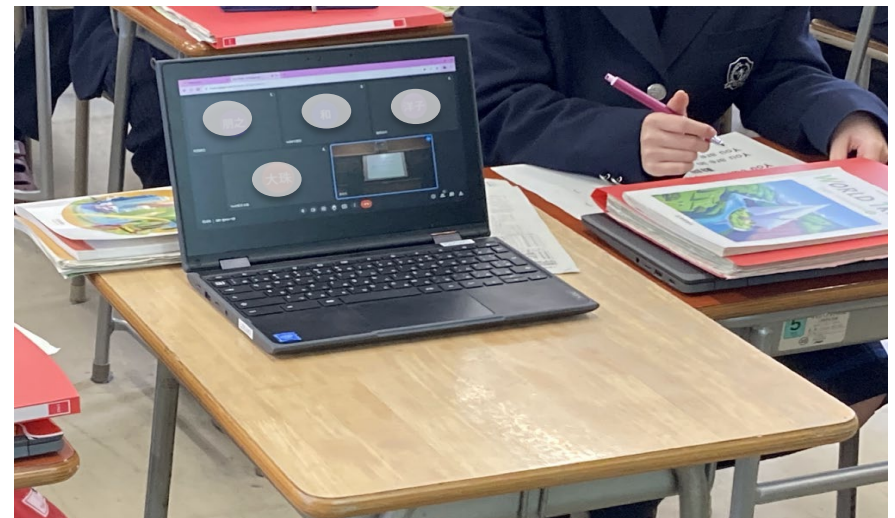
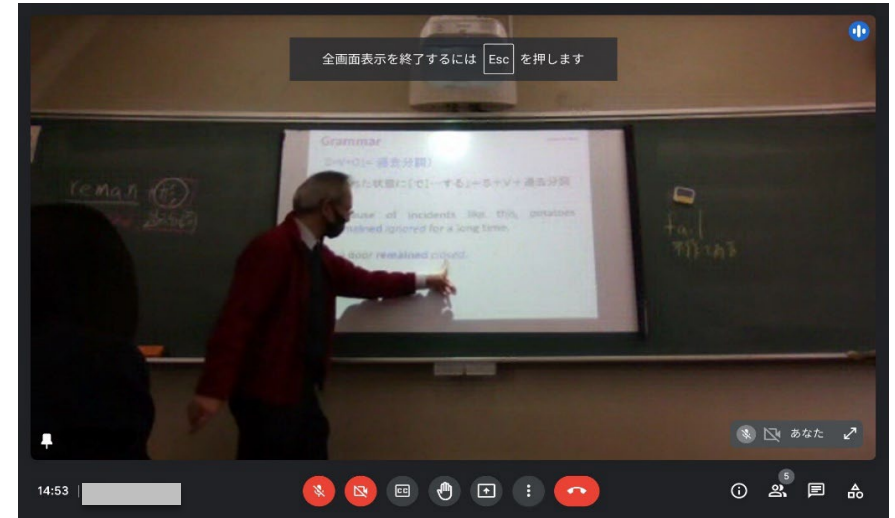
ChromeBook 1 台で誰でもリアル＋オンライン学習を両立。



小論文や英作文の指導もTeams上で行い、受験期の学びの継続と生徒の不安解消に大きく寄与した。
ペン対応端末で直接書き込み、手書きの良さもデジタルツールで生かした。

生徒が「ICTリーダー」となり教室での授業を同時双方向で配信 (三重県立T高等学校)

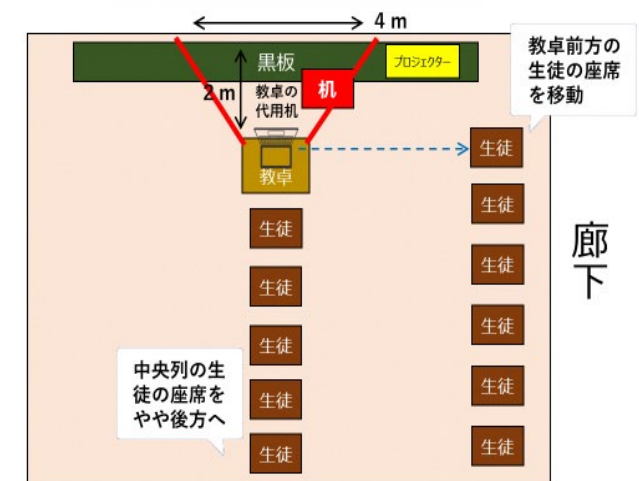
- 1年生の複数名の生徒が、新型コロナウイルス感染症への感染や、濃厚接触者の候補者となった。
- 学校に登校できない期間において、当該生徒の学習を保障するため、すべての授業を双方向型オンラインで配信した。
- このことにより、学校に登校できるようになった後も再度同じ指導を行う必要がなく、他の生徒に遅れをとることなくスムーズに通常どおりの指導に戻ることができた。
- 同時双方向型の授業配信の開始準備や端末操作については、各学級のICTリーダー（生徒）が行うことで、スムーズに実施できている。



自前のICT端末の活用による同時双方向の学習指導 (静岡県静岡市立U高等学校)

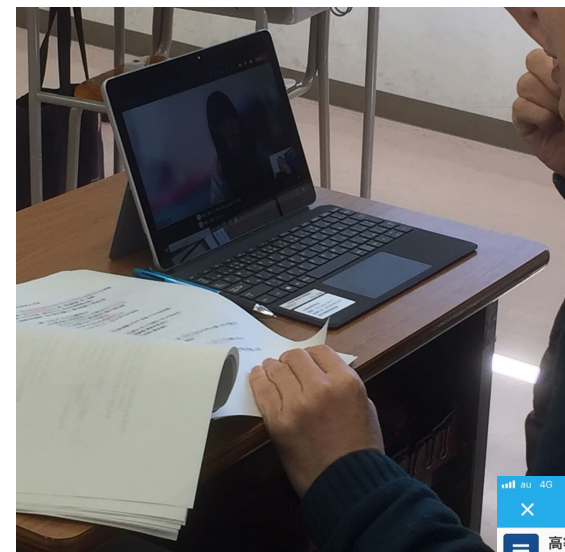
- U高等学校の部活動において、1名の生徒が新型コロナウイルス感染症に感染し、同じ部に所属する9名の生徒が濃厚接触者の候補者となった。
- 当該生徒に対してWeb会議システムを活用し、教室内にPCをセッティングして授業のライブ配信を行った。授業中はチャット機能を利用し、当該生徒から出た意見等を教室で教員が周知するなど、当該生徒が授業に参加する形式で行った。質疑応答は、授業後に担当教員がメール等で細やかに行った。
- 生徒は自前のICT端末を活用して、自宅においても授業を受けることができ、学習習慣を維持することができた。

教室PC配置図

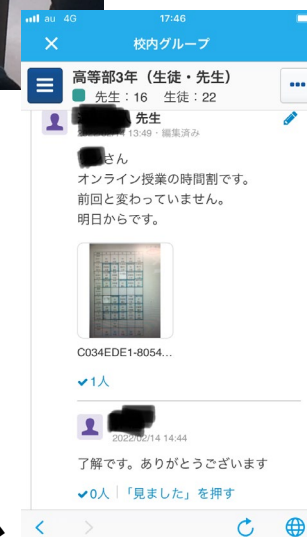


大学の一般入試に対応したオンライン学習 (東京都立Vろう学校)

- 一般入試を控えている高等部3年生の生徒。
- 中学校に通う妹が新型コロナウイルス感染症に感染したことにより、濃厚接触者となり、7日間自宅待機。
- 自宅からオンライン学習を行い、入試科目の弱点の補強を行った。
- オンライン学習の時間割や、担任等との連絡のやり取りは、学校独自で契約している学習支援ソフトを使用した。
- オンライン学習をする際は、東京都で導入しているWeb会議システムを使用して指導を実施。
- 実技以外はすべてオンライン学習が行えるよう整備した。対面授業からオンライン学習に切り替える時は、迅速に対応し、教師が情報共有できるよう組織的に行っている。
- 画面上では、手話や指文字を使用した教師の映像に加え、パワーポイント資料の提示、音声入力文字変換機能を活用した字幕の提示等、様々な視覚的情報を提示し、聴覚障害の特性に十分配慮した指導を行った。



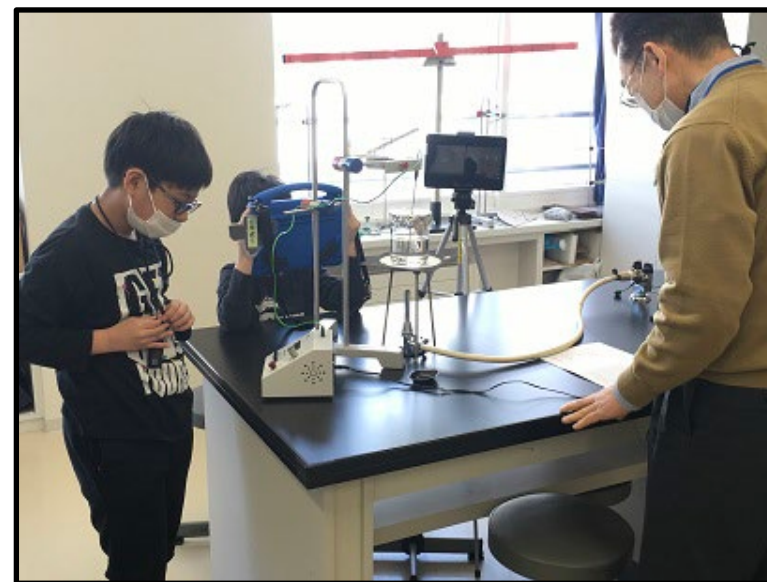
↑ 教師側の授業の様子



↑ 学習支援ソフトを
活用した担任とのやりとり

コロナ禍等における家庭との連携による学びの保障 (北海道立W視覚支援学校)

- 小学部の準ずる教育課程で学習する在籍児童（全員弱視児）のうち、在籍数の半数が自宅待機者となった。
- 自宅で待機する児童と登校している児童を同時双方向授業が可能な端末によって繋ぎ、オンライン学習を実施。
- 当該児童の保護者の協力により、学習支援ソフトを活用して課題配信や時間割等の連絡を行い、担任と連絡が取りあえるようにした。
- 弱視児はそれぞれ見え方が異なることから、端末に備わっている、画面のピンチイン、ピンチアウトによる拡大縮小等の機能を活用し、見え方に応じた情報保障を行った。



学習支援ソフトによる オンライン学習の実施



学習支援ソフトによる 教材の送付等の画面

Web会議システムにより課題や定期的な連絡を配信 (東京都立X特別支援学校)

- 特別支援学校（知的障害）の生徒。
新型コロナウイルス感染症の感染防止のため登校を控えている。
- 当該生徒に対して、Web会議システムを活用し、教室での授業をオンラインで再現することで、教室での授業に近い指導を受けられるように環境整備をした。
- オンライン学習の前に、課題や学習活動の予定を伝えることで、当該生徒が学習の見通しをもって、安心して、オンラインでの学習に臨むことができた。



↑ 教師側の授業の様子